



ロシアNIS経済速報

一般社団法人 ROTOBO

2025年(令和7年)6月5日号 No.1992

目次

■ ロシア・キルギス間貿易にみる迂回取引の実態	1
■ 統計速報	10
2025年1～3月のロシアの主要経済指標／10	
■ トピックス	14
三菱重工、ウズベキスタンでの脱炭素化へ向けた覚書締結／14	
日口地先沖合漁業交渉、半減で妥結／14	
ロシア・ウクライナが2回目の直接協議／14	
INPEX、アゼルバイジャンの原油ターミナル電化に投資／14	
モンゴルで首相が辞任／14	

ロシア・キルギス間貿易にみる迂回取引の実態

(一社)ROTOBO ロシアNIS経済研究所
嘱託研究員 齋藤 竜太

はじめに

今号ではロシア・キルギス間の貿易動向を取り上げる。特にウクライナ侵攻後のキルギスの対口輸出の活発化について考察・分析することを試みる。

ロシアによるウクライナ侵攻後、中央アジアやコーカサス地域を経由した迂回貿易が活発化したことは周知の通りである。アルメニアを経由する携帯電話や、中央アジアを経由する電化製品や自動車など、様々な物品が、西側諸国の制裁を迂回し、ロシア市場に流入しているとされている。

本稿ではそのハブの一つとされ、詳細な貿易統計が公開されているキルギスを中心に扱う。そのうえで、迂回貿易において重要な商品供給源とされている中国等との貿易動向にも注目し、適宜それぞれの国々の統計資料も参照する。これにより、ロシア・キルギス間の貿易動向を俯瞰し、迂回貿易のありようについて明らかにすることを目指す。

結論から言うと、キルギスはウクライナ侵攻後、機械類や自動車などの品目をロシアに活発に輸出した。その一方でロシア国内の規制導入により影響を被った面もあった。キルギスは出稼ぎ労働により経済面でのロシア依存の度合いが強く、ロシア側の移民政策の影響を受けやすいが、迂回貿易もまた、キルギスにとって新たな収入源である一方で、ロシア側の事情に左右されやすいという脆弱性を有していると言える。